

会議報告

第36回東北家畜衛生協議会検討会及び 東北支所主催各部門検討会報告

IWAMURA Shokichi

動物衛生研究調整監 岩村 祥吉

第36回東北家畜衛生協議会検討会及び平成20年度の東北地域病性鑑定各部門及び放牧衛生の検討会を以下の通り開催したので、概要を報告します。

第36回東北家畜衛生協議会検討会は、東北家畜衛生協議会(会長：動物衛生研究調整監)と動物衛生研究所東北支所の共催により平成20年10月30日、31日の両日、東北各県の家畜衛生担当者を中心に89名が参加し、岩沼市のモンタナリゾート岩沼で開催されました。今年は4月下旬に十和田湖畔で死亡した白鳥からH5N1亜型の鳥インフルエンザウイルスが検出されたことから「高病原性鳥インフルエンザ」と、発生頭数が増加している「牛白血病」の2つをテーマに、動衛研の西

藤岳彦主任研究員に「高病原性鳥インフルエンザ」、秋田県農畜振興課の山口恭代先生に「秋田県におけるオオハクチョウの高病原性鳥インフルエンザ感染に対する前後対応について」、青森県畜産課牧野仁先生に「ハクチョウからの高病原性鳥インフルエンザウイルス検出にかかる対応について―青森県の事例―」、岩手大学農学部の岡田幸助先生に「牛白血病の基礎」、動衛研の村上賢二上席研究員に「地方病性牛白血病の新しい診断法とその応用」の講演をいただきました。また、各県から牛の感染症に関する事例報告と総合討論も活発に行われ、大変有意義な検討会でした。本協議会は、東北地域の家畜保健衛生所に加え、大学、家畜改良センター、動物検疫所など動物衛生関係者が一堂に会し、泊まり込みで議

論、情報交換を行っており、参加者からは「他ではできない情報交換の場となり有意義」との評が毎回寄せられています。

第27回東北病理標本検討会(「病理」と第17回家畜衛生部門別検討会(「細菌」)は、平成20年9月11日、12日の両日、七戸町商工会会議室及び東北支所会議室、実験室において開催されました。「病理」には東北各県の病理担当



第36回東北家畜衛生協議会検討会

会議報告

者に加えつくばでの病理研修生や支所職員ほか計21名が参加し、東北支所の三上修主任研究員による「東北6県の病性鑑定豚における*Lawsonia intracellularis*感染状況」の講演と、参加者が事前に標本を検討した上で討議する標本検討会が行われました。本検討会は長年にわたり各県担当者の病理診断能力の向上に貢献しています。「細菌」には東北各県の細菌担当者、家畜改良センター、民間企業、支所職員計19名が参加し、アプライドバイオシステムズ社の協賛で、同社の永野麻奈美スペシャリストから定量PCR法の講義と実習の説明及びABI PRISM 7000を用いた実習が実施されました。昨年度に続いての実習を中心とした企画で、参加者の評判は良好でした。

第28回東北地域病性鑑定担当者会議(「ウイルス」、「生化学」)及び第4回東北地域放牧衛生担当者会議(「放牧衛生」)は、平成20年10月9日、10日の両日、支所会議室、七戸町商工会会議室及び七戸中央公民館の3か所の会場に分かれて開催されました。参加者は東北各県の家畜保健衛生所、家畜改良センター及び支所職員などで、「ウイルス」には19名、「生化学」には16名、「放牧衛生」に21名が出席しました。「ウイルス」では動衛研の亀山健一郎研究員の「牛ウイルス性下

痢・粘膜病の発病機序、診断法および各国における対応」、東北支所の坪井孝益上席研究員の「牛ウイルス性下痢・粘膜病における各種検査法の長所・短所と野外応用について」の講演に続いて、各県病鑑担当者の事例報告が行われました。「生化学」では動衛研の林智人主任研究員の「乳房炎の診断と免疫について」と山中典子上席研究員の「畜産分野におけるリスク評価」の講演に引き続き、各県の事例報告が行われました。「放牧衛生」では「実践草地管理入門—健全な放牧は健全な草地から—」とのテーマで畜産草地研究所放牧管理研究チーム山本嘉人上席研究員から「草地維持管理技術」、平野清主任研究員から「有機畜産と放牧」、さらに東北支所の寺田裕上席研究員の「放牧関係最近の話題」の講義と各県から放牧衛生対策の事例発表がなされました。

平成20年度、東北各県の家畜保健衛生所の技術支援、関係機関相互の情報交換、連携協力を図るため東北支所が企画、運営する協議会及び各種検討会はそれぞれ来年度の継続希望を確認して無事終了しました。協議会及び検討会等を開催するに当たり、講師はじめ各県運営委員など関係各位の多大なご協力に対し深く感謝申し上げます。



第17回家畜衛生部門別検討会(細菌)



第4回東北地域放牧衛生担当者会議(放牧衛生)